

# いの流水俳壇

松尾 満津於 選

## 「初笑、笑初」

大川 節弥

### 老老の介護や母の初笑

(評) 老人の介護状況であるが、老人といってもその内容は千差万別で、認知症を含め身体のどこかに、或いはその複合した形の介護であるので、決して生易しいものではなく、而もこの句は老人が老人を介護しているのである。この句の初笑いには戦前戦後を耐えて来た女性の、ど根性を感じとられて、新春の意気込みと明るさを思わせる初笑である。

渡辺 万利子

### 祖母笑ふ十人いろ初笑

(評) 一家一族が寄り揃い新春を謳歌しているのである。祖母というのが誰なのか、その詮索は別として、とにかく親しげな風貌を持った句である。祖母について親子、孫とそれぞれのが笑いが起る。こんなはキットいい年であるだろう。

川村 博子

### 笑初だんだん愚痴に変わりつつ

(評) 生家を遠く離れて他所

で生活している子や孫が、正月を田舎で過すため帰郷した。久し振りに家中活気が漲り積る話に笑いが起き、束の間のよろこびに浸る、それも一両日でもたまたまの夫婦だけの生活にもどる。笑顔が愚痴に変わるときである。

川村 千図子

### 曾孫に遺る諭吉一枚初笑

(評) お年玉であろうか、曾孫に諭吉(一万円札)を呉れてやった。曾孫の年令が何才であるのかわからないが「諭吉」か「英世」の見分けはつづのであろう。思い掛けない「諭吉」には「ひばあちゃんありがとう」と素直な笑顔がこぼれたであろう。

中屋 桜子

### 孫に腰押され階初笑

(評) 梯子階段で二階に上る祖母、後で腰を支えている孫もうしばらくしつかり支えておぼあちゃんの腰重たいねえ…大きくて重いからこそあなたのお父さんが育ったがヨ…サアもうチョット我慢して…祖母との会話が見えるような初笑。

岡本 とも子

### 湯上りの大きなクシャミ初笑

片岡 包女  
独りにも仕合せはあり初笑

刈谷 志津

### 団樂の茶の間はみだす初笑

友草 水月

### ハイポーズ爺婆真中初笑

筒井 眉躬

### 真心に晴着をつけて初笑

間 浩太

### 嬰の馬となりて嘶き初笑

川上 こよね

### 立ちそめし曾孫と揃いて初笑

津田 久美

### あるがまま生きよと婆の初笑

竹崎 老子

### 初笑顔配ってゆきし郵便夫

中野 好子

### 松とれて元の家族に戻りけり

小島 良

### 厨より七草粥が呼んでいる

森元 二美子

### 目も鼻もめちやくちやに置く福笑

榊原 喜美子

### 初鏡昨日の顔に紅を引く

井上 郁子  
千代の像うなづく媪冬すみれ

楠目 哲朗

### 真青なる空を切り裂く冬の蝶

松岡 陽子

### 鈴の緒にとどかぬ孫の初詣

川村 愛

### 寒さびしモーターで行く郵便婦

筒井 文

### まがる背を少し伸ばして初笑

藤田 里野

### 内外の孫に囲まれ笑初

吉良 芙美

### 吊し柿風にふかれてダイエツト

弘瀬 うき子

### 蒼々の手造り餅の土産かな

伊藤 たみ

### 福耳は顔も吉相初笑

松尾 満津於

### 初笑涙に弱き傘寿なる

次題 「当季雑詠」 五句

### 締切 毎月十五日

### 投句先

吾北教育事務所  
上八川甲2010

## 今月のことも川柳

あそぶとき みんなとあそぶ すてきな子  
神谷小 1年 ひろせ まさき  
くらいなか サンタクロース これるか  
下八川小 2年 そが あすか  
うまいけど 大人の書道 読めないよ  
伊野小 4年 弘井 七帆

秋になり 緑の山が ころもがえ  
清水第一小 5年 筒井 達朗  
秋深く ほどの紅葉 まっかだな  
清水第一小 5年 筒井 郷美

## お礼

山口県防府市西仁井令2  
丁目23-3 森泰様から特別  
養護老人ホーム借楽荘のため  
に、ご寄付をいただきました。  
紙上を持って厚くお礼申  
し上げます。ありがとうございます。  
ございました。